

【共通】汎用的能力要素の学修到達目標に対する学修成果の評価指標

到達目標の詳細は、「キャンパスライフハンドブック」を参照。

※レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

Table with 5 columns: 主体的・自立的に行動できる確かな人間力(態度・志向性), ベンチマーク Level 1, マイルストーン Level 2, Level 3, キャップストーン Level 4. Rows include categories like '汎用的能力要素の学修到達目標', '教養ある社会人としての基礎力', '社会人としての汎用的能力', and '地域生活を支援し、創造する力'.

2) 目的を設定し、将来設計に沿って確実に行動することができる。	与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取り組むことができる。	与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取り組むことができる。明確な自らの目的はまだ見出せるまででないが、課題や活動のなかに自己の将来ビジョンとのつながりを少しは考えられる。	与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取り組むことができる。行動の証を示せる意識が、課題や活動のなかに自己の将来ビジョンとのつながりを見出し、明確な自らの目的を設定できている。	与えられた課題や活動の目的を理解し、取り組むことができる。課題や活動のなかに自己の将来設計とのつながりを見出し、明確な自らの目的を設定でき、それに対する行動の証を示すことができる。
3) 獲得した知識、技術・技能、態度等を総合的に活用し、経験から新しい価値や課題を見出し解決することができる。 ① 経験を基にさらに新しい価値を生み出すことができる。 ② これまでに獲得した知識、技術・技能、態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。	与えられた課題や活動をその授業の学修内容だけで解決している。経験や知識は、その授業以外のこととは連続しない個々のものとして捉えている。	与えられた課題や活動をその授業以外の経験を含めて適用し解決できる。その課題からは、自らの考えや価値、新たな課題を見出すことができる。個々の経験や知識について、連続する総合的な見方をするまでには至らない。	与えられた課題や活動をその授業以外の経験を含めて適用し解決できる。その課題から自らの考えや価値、新たな課題を見出している。個々の経験や知識について、連続する総合的な見方ができるが、自ら立てた課題を解決できるまでには至っていない。	与えられた課題や活動をその授業以外の経験を含めて適用し解決できる。その課題から自らの考えや価値、新たな課題を見出している。個々の経験や知識が連続する総合的な見方ができている。自ら立てた課題の解決がされており、新しい価値を見出している。

【専攻科】 専門的能力要素の到達目標に対する学修成果の評価指標
到達目標の詳細は、「キャンパス・ライフ・ハンドブック」を参照。

※到達レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】(態度・志向性)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
		Level 2	Level 3	
1) 相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。	介護を行う場面において、思いやりをもって行動することができ、ほかの人への気配りができている。また、情報共有が必要な場面においてのリーダーへの報告や連絡、そして相談する意識が形成されている。そして、介護の現場においてチームでケアの実践に取り組む必要性を理解している。さらに、チーム活動に対しては自ら参画する意欲をもち、そのために必要な積極性が身につけている。	介護を必要とする人の心や身体、社会的な役割などについて理解するため、その人があるがままに受け入れるよう努力している。さらに、介護を必要とする人やその家族の心理的な状況を把握する重要性を理解している。そして、豊かな感性をもち、他者を尊重できる誠実な態度と真摯な姿勢を身につけるよう努力している。	介護を必要とする人の心や身体、社会的な役割などについて理解するため、その人があるがままに受け入れることがほとんどの場合でできている。さらに、介護を必要とする人やその家族の心理的な状況を把握することがある程度はできている。そして、豊かな感性をもち、他者を尊重できる誠実な態度と真摯な姿勢を常に心がけている。	介護を必要とする人の心や身体、社会的な役割などについて理解するため、その人があるがままに受け入れることができている。さらに、介護を必要とする人やその家族の心理的な状況を把握することができている。そして、豊かな感性をもち、他者を尊重できる誠実な態度と真摯な姿勢を身につけている。
2) チーム参画への志向態度を身につける。	組織の一員として活動することができ、協調性をもってメンバーとかかわることができている。また、情報共有が必要な場面においてのリーダーへの報告や連絡、そして相談する意識が形成されている。そして、介護の現場においてチームでケアの実践に取り組む必要性を理解している。さらに、チーム活動に対しては自ら参画する意欲をもち、そのために必要な積極性が身につけている。	組織の一員として身につけておくべき行動基準の理解と仕事を進める上で必要な意識や姿勢をもつことの重要性に気づいている。さらに、組織においてグループで活動するための方法とチームの力を高める技術について、ある程度は理解できている。また、チームでケアを行うにあたり、支援計画に沿っての行動やチーム全体での振り返りにかかわる努力をしている。	組織の一員として身につけておくべき行動基準を理解し、仕事を進める上で必要な意識や姿勢をもつために努力することができている。さらに、組織においてグループで活動するための方法とチームの力を高める技術について理解している。また、チームでケアを行うにあたり、支援計画に沿って行動し、チーム全体での振り返りを行うことで今後のケアにつなげることができる姿勢が身につけている。	組織の一員として身につけておくべき行動基準を深く理解し、仕事を進める上で必要な意識や姿勢をもつことができている。さらに、組織においてグループで活動するための方法とチームの力を高めるスキルを身につけている。また、チームでケアを行うにあたり、支援計画を立てて行動し、チーム全体での振り返りを行うことで今後のケアにつなげることができる。
3) 職業倫理観を身につける。	利用者に信頼され得る誠実な態度を身につけることができている。そして、自らの健康に気をつけるなど自己を大切にすることもできている。また、コミュニケーションにおいては、自分のことばかりでなく他者の思いを感じ取り、互いに話し合う円滑な場面の設定ができる能力を身につけることができている。	福祉専門職として自己の認識と他者への理解を通して相互理解を図るための取り組みを行っている。そして、介護福祉士としての行動規範に則り、利用者本位と自立支援のあり方について理解しようとしている。さらに、社会に貢献できる人材として、価値観と倫理観に基づく規範的な態度を身につけることができるように努力している。	福祉専門職として自己の認識と他者への理解を通して相互理解を図ることができている。さらに、介護福祉士としての行動規範に則り、利用者本位と自立支援のあり方について、ある程度は理解できている。結果、社会に貢献できる人材としての確かな価値と倫理観に基づく態度を身につけることができている。	福祉専門職として自己の認識と他者への理解を通して相互理解を図り、信頼関係を形成することができている。さらに、介護福祉士としての行動規範に則り、利用者本位と自立支援のあり方について深く理解している。結果、社会に貢献できる人材として、確かな価値と倫理観に基づく態度を身につけることで、介護の実践場面において役立てることができる。
【教養ある専門職業人としての基礎力】(知識・理解)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
1) 介護実践の根拠を理解する。	人が人として生きる権利を有していることを理解し、社会的弱者の権利を守る認識がなされている。そして、日本国憲法にある基本的な人権の尊重について理解を深めている。さらに、人々の権利を守るための法律や制度について理解し、活用するための方法について学ぶことができている。	自分らしく生きる権利を擁護する専門職としての意識と個人の権利を守るための制度・法律の種類については理解できている。そして、個人情報の保護や権利擁護の実践、さらには虐待防止への取組みの重要性について気づくことができている。	自分らしく生きる権利を擁護する専門職としての意識は既に身につけており、今後は個人の権利を守るための制度・法律の理解とその活用方法の習得に努めている。また、個人情報の保護や権利擁護の実践、さらには虐待防止への取組みにしてもある程度は理解できている。	自分らしく生きる権利を擁護する専門職としての意識が身につく、個人の権利を守るための制度・法律の理解とその活用方法を習得し実践できる力を得ている。個人情報の保護や権利擁護の実践、さらには虐待防止への取組みについて深い理解を示している。
2) 介護に必要な基礎的知識と論理的思考力を身につける。	将来、利用者の生活を支える介護福祉士として社会に貢献するという意欲をもち、介護福祉についての魅力や課題を語る。高齢者や障がい者など介護を必要とする人々の生活について、思い描くことができ、一人ひとりに合わせた支援方法とサービス提供についての理解ができている。介護福祉に関連する専門職として、保健・医療・福祉などの他職種名と業務内容について知っている。	介護福祉士としての社会的な役割の理解と介護技術の活用方法について、関連づけて理解できている。また、高齢者や障がい者、その他の要介護者への支援における、必要なサービスについて説明することができる。さらに、チームアプローチにおける保健・医療・福祉など他の専門職の業務内容と機能について把握し、多職種連携の意義とその目的について理解しようとしている。	介護福祉士としての社会的な役割は理解でき、介護の技術を活用・実践していくうえで必要な専門的知識を身につけようとしている。また、高齢者や障がい者、その他の要介護者への支援における必要なサービスと専門職の役割について十分理解できている。さらに、チームアプローチにおける保健・医療・福祉など他の専門職の業務内容と機能について把握し、多職種連携の意義とその目的について十分理解できている。	介護福祉士としての社会的な役割を理解し、介護の技術を活用・実践していくうえで必要な専門的知識を身につけている。また、高齢者や障がい者、その他の要介護者への支援において、それぞれの生活実態や特性によって必要なサービスと専門職の役割について十分理解している。さらに、チームアプローチにおける保健・医療・福祉など他の専門職の業務内容と機能について把握し、多職種連携の意義とその目的について十分に理解できている。
3) 介護に関する社会的制度・施策を理解する。	私たちが暮らす社会において、生活を支える法律や制度について理解し、活用するための方法について学ぶ姿勢がある。特に介護福祉に関する法律として、介護保険制度や障害者総合支援法などの活用方法について学ぶことができる。	人々の暮らしと形成される社会との関係性、さらにはその形態や構造、役割の変化についての理解に努めている。さらに、社会保障制度の機能性の理解と実践場面における活用方法について学んでいる。	人々の暮らしと形成される社会との関係性、さらにはその形態や構造、役割の変化についての概要が理解できている。また、既に社会保障制度の機能性については理解でき、今後は介護実践の場面における活用方法の習得に努めている。	人々の暮らしと形成される社会との関係性、さらにはその形態や構造、役割の変化について十分に理解できている。さらに、社会保障制度の機能性について理解し、実践の場面において活用する方法がわかっている。
【専門職業人としての汎用的能力】(技能・表現)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
1) 職業生活ほか知的活動を支えるコミュニケーション力を身につける。	言葉や文字、身ぶりなどを用い、自ら積極的に他者とのコミュニケーションを取るような姿勢がみられる。また、利用者との信頼関係を築く重要性を理解しており、そのための技術を身につけようとしている。さらに、自己の気づきと他者を理解するための取組みを行ない、コミュニケーションスキル向上の重要性について理解している。	専門的信頼関係を結ぶために必要とされるコミュニケーションスキルについて学ぶ意欲がある。また、チームケアに必要な専門職間の情報共有と協働実践におけるコミュニケーション技術の習得を目指している。さらに、言語・準言語・非言語コミュニケーションの知識とその活用方法の理解に努めている。	福祉専門職におけるコミュニケーション技術の重要性を理解しており、専門的信頼関係を結ぶための方法について学んでいる。また、チームケアに必要な専門職間の情報共有と協働実践におけるコミュニケーション技術が十分に身につけている。さらに、言語・準言語・非言語コミュニケーションの知識と方法を理解でき、今後の実践において活用していくことを望んでいる。	専門的信頼関係を結ぶために必要とされるコミュニケーションスキルについて習得できている。また、チームケアに必要な専門職間の情報共有と協働実践におけるコミュニケーション技術が十分に身につけている。さらに、言語・準言語・非言語コミュニケーションの知識とその活用方法を理解し、実践に結びつけることができる能力を有している。
2) 介護支援技術(介護予防から看取りまで)を身につける。	現代社会において自立した生活について考えることができ、介護を必要とする人々の生活を支えるための方法について学ぶ意欲が見られる。介護記録を書くにあたり、学習レポートやノートの記載においても適切な日本語を用いることができている。さらに、介護福祉に関する専門用語の理解と他分野の知識習得にも努力している。また、パソコンを用いて文書や発表資料を作成する能力を有しており、情報収集のためのインターネット活用方法も理解できている。	介護を行うにあたって必要とされる関連技術とその実践方法について学んでいる。そして、介護が必要な人に対し、身体的状況および心理的・精神的な状態について、関心をもちながら接することができる。さらに、介護福祉の専門職として、医療的なケア、ターミナル期における関わり、自立に向けて必要な自助具・福祉用具、記録や報告におけるIT技術の活用、ケアカンファレンス・事例検討の開催などの必要性を感じることができている。	介護を行うにあたって必要とされる関連技術の基本については既に理解でき、今後はさらに実践へとつなげるための努力をしている。そして、介護が必要な人について、精神的・心理的な状態や身体的状態、医療の必要性などに関する基本的な知識や技術の理解ができている。さらに、医療的なケア、ターミナル期におけるケアの方法、自立に向けて必要な自助具・福祉用具、記録や報告におけるIT技術の活用、ケアカンファレンス・事例検討などの必要性と活用方法について、ある程度は理解できている。	介護を行うにあたって必要とされる関連技術について十分に理解し、実践に結びつけることができている。そして、介護が必要な人について、精神的・心理的な状態や身体的状態、医療の必要性などに関する知識と技術について理解できている。さらに、医療的なケア、ターミナル期におけるケアの方法、自立に向けて必要な自助具・福祉用具、記録や報告におけるIT技術の活用、ケアカンファレンス・事例検討などの必要性と活用方法を十分に理解することができる。
【地域生活を支援し、創造する力】(行動・経験・創造的思考力)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
1) 介護を必要とする人の潜在能力を引き出すことができる。	生まれてから、最期を迎えるまでの人生における必要なケアについて、専門的な知識の習得と技術を身につける心構えができている。さらに、人間の有している可能性について理解を示し、介護場面においても専断の保持に努めるよう努力できている。	乳幼児・障がい児から大人まで介護を必要とする人のライフステージに応じた介護サービスの実践を意識することができる。そして、自立支援の在り方を理解するため、基本的な介護の知識・技術を学び、身につけることができている。さらに、地域生活における介護の社会資源についても学習し、その活用方法について身につけようとしている。	乳幼児・障がい児から大人まで介護を必要とする人のライフステージに応じた関わりができ、生活の質向上を意識しながら介護サービスを提供することができる。そして、そのための基本的な介護の知識・技術を意識することで、自立支援の在り方を理解し、実践場面に振り返ることによって自己の成長を促すことができる。さらに、地域生活における介護の社会資源についてもある程度は把握でき、その活用方法についても理解するよう努力している。	乳幼児・障がい児から大人まで介護を必要とする人のライフステージに応じた介護サービスの実践において、ストレンギス視点に基づくエンパワメントアプローチの重要性を理解しながら提供することができる。そして、そのための専門的な介護の知識・技術を確かなこと、自立支援の在り方を理解し振り返ることができている。さらに、地域生活における介護の社会資源についても把握し、その活用方法についても理解することができる。
2) 自ら発見した新たな課題を解決することができる。	ケアの実践において、多角的な視点をもち、個人の特性のみならず環境面への配慮と生活背景を踏まえた情報収集、包括的な考察をすることができている。そして、介護計画を立案するうえで、実践とその評価により、支援の内容をさらに改善することができる。	社会的な問題について関心をもっており、社会の諸課題に対して解決に取り組むための意欲がみられる。そして、介護計画の作成・実践・評価に関する専門的な知識と技術の習得を目指している。また、ICF について学び、介護の実践場面における活用方法について考えることができる。	社会的問題に対して取り組む意欲を示し、課題解決においても自ら行動することができている。そして、生活モデルを活用して介護計画を作成することができ、実施と評価することができ、その能力を身につけている。また、ICF について学ぶことができ、利用者の情報収集、さらには生活上のニーズ把握ができている。	社会的問題に対して主体的に取り組むことができ、課題解決においても積極的に行動することができている。そして、生活モデルを活用した介護計画の作成・実践・評価において考察し、改善する能力を身につけている。また、ICF の視点をもって利用者の情報収集、生活上のニーズ把握ができ、さらに環境面に配慮した支援を考えることができている。

3)利用者本位のサービス提供を行うことができる。	介護の場面において、利用者やその家族の生活を大切に、尊敬をもって関わることができている。そして、介護実践においても主体的な取り組みを心がけ、積極的に行動することで疑問を解決することができる。	利用者主体のニーズ把握と生活モデルに基づく介護支援の方法について考えながら実行できている。さらに、介護の実践場面において、積極的にかわることができ、利用者への支援について率先して取り組むことができている。	生活状況・特性に応じた介護サービスの提供において、利用者の主体性を意識しながら実践するための知識を有している。そして介護の実践場面において、リーダーシップを発揮するためのスキルが習得できるように心がけている。さらに、利用者やその家族からの介護に関する相談に応じるための技術と助言するための基本的な知識を身につけている。	個別性の原則に基づき、生活状況・特性に応じた介護サービスにおいて、利用者の主体性を意識しながら提供することができる。そして介護実践において、率先して取り組むなかでリーダーシップを発揮することができる。さらに、利用者やその家族に対し、介護に関する支援を行う相談に応じ、適切な助言をすることができる専門的な知識と技術を兼ね備えている。
--------------------------	---	--	---	---

西九州大学短期大学部(学位授与方針)の到達目標に対する学修成果の評価指標 ※レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

I 【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
		Level 2	Level 3	
①自己の心と体の状態を把握し、健康な生活管理を図ることができる。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを少しは持っている。健康な生活管理を少しは意識している。自分のライフスタイルについて少しはイメージできている。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを持っている。自分の健康について必要とする知識を少しは得ようとしている。日常の様々なストレスへの対処は十分でないが、自分のライフスタイルのイメージに合わせて健康な生活管理を意識して、少しは管理できている。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを持っている。自分の健康について必要とする知識を得て生活管理に努めている。自分のライフスタイルを把握して、健康な生活習慣を自意識して、少しは管理できている。日常の様々なストレスを理解しており、その改善に努めている。	自分の心と体の健康状態を理解して、健康維持のために規則正しい生活管理に努めている。将来展望のなかで、自分のライフスタイルを把握しており、生活習慣は継続して管理できている。日常の様々なストレスへの対処が十分できている。継続して良好な健康を維持できている。
②自己の良心と社会の規範やルールに則って行動できる。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っているか、またはその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにしている。明らかな倫理的問題や社会的ルールは浅いが認識している。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っており、かつその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見を把握できる。明らかな倫理的問題や社会的ルールは認識しており、それらの関係性のある程度把握できている。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っており、かつその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見の前提や含意を述べることができ、不十分だがそれに対する自分の答えがある。倫理的問題や社会的ルールの背景を知っており、それらの複雑さや関係性を把握できている。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念とその由来を詳細に自己分析し、議論を深めて明確にしている。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見の前提や含意を述べることができ、それに対する自分の主張を合理的に、十分かつ効果的に答えられる。複雑な倫理的問題や社会的ルールが示されてもこれらを把握でき、それらの複雑さや関係性を理解して行動がとれる。
③主体的に、自らを律して行動するとともに、目標実現のために協調・協働して行動できる。	グループなどの集団的活動において、一員として考えを共有できる。分担する課題解決は締切までに完成できる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションあるいは肯定的な態度が示せる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。分担する課題は締切までに完成できる。その成果によって、グループの課題解決を前進させることができる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションあるいは肯定的な態度が示せる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。他者の考えに基づいた代替的な解決法や行動計画を提案することができる。分担する課題を締切までに完成させることができる。その成果は徹底的で包括的であり、プロジェクトを前進させる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションを行い、肯定的な態度を示している。課題の重要性チームワークへの貢献を表明し、チームを動機づけることができる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。代替的な提案の長所を明確にし、チームの前進を助けることができる。分担する課題を締切までに完成させることができる。その成果は徹底的で包括的であり、プロジェクトを前進させる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションを行い、肯定的な態度を示している。課題の重要性チームワークへの貢献を表明し、チームを動機づけることができる。
④社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行き届き、社会の発展のために積極的に関与できる。	種々の市民的活動に参加したことは少しはある。自分のなかで諸活動の意味を少しは見つめ直すことができる。社会の一員として、周囲の人との関わりを持つよう心掛けている。	種々の市民的活動に参加したことがある。参加した活動は、教育の一環での参加であり、自分の学修成果からではないが、自分のなかで活動の意味を見つめ直すことを考え始めている。	種々の市民的活動に積極的に参加している。参加した活動は、教育の一環での参加であり、自分の学修成果からであり、自分のなかで活動の意味を見つめ直し、何を学んだかをはっきり述べるができる。	多様な市民的活動に積極的に、かつ継続的に参加している。参加した活動では、リーダーシップや役割をもって、自立的に参加している。参加した活動からは、自分の学修成果を得ている。活動への参加は、市民意識の感覚からであり、自分のなかで活動の意味を見つめ直し、何を学んだかをしっかりと述べるができる。
⑤生涯にわたって自律・自立して学習できる。	与えられた課題等を仕上げる事ができる。授業の到達目標を考え、そして知識の追求に興味を持てる。その探求レベルはまだ浅いと言える。	与えられた課題等を仕上げる事ができる。授業の到達目標の先にある関連する知識を自ら追求することに興味を持てる。その探求では、成果を示すことができる。成果では、部分的だが考察し、授業外の異なる状況に応用することを少なからず述べている。	与えられた課題等に興味を持って探究することができる。仕上げる事ができる。授業の到達目標の先にある関連知識を自ら探求している。これまでの学びの成果を振り返り、授業外での異なる状況に応用することができる。その成果を示すことができる。	与えられた課題等に強い興味を持って探究することができる。仕上げる事ができる。授業の到達目標の先にある関連知識を自ら探求し、自己の能力を拡大する機会を授業以外にも設けて追求している。
II 【教養ある専門職業人としての基礎力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
①社会生活・職業生活にとって意味ある知識を獲得し、総合的に理解・使用することができる。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 60%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な能力の必要性を理解し始めている。※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 70%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な能力の必要性を理解しており、また将来の職業生活に向けて、専門以外の分野とのつながりについて意識し始めている。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 80%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な知識や技能の学修に努めており、日常生活において時折、総合的に知識を使用することができる。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 90%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、授業以外でも汎用的な知識や技能の獲得に自ら努めており、日常生活の場面で、総合的に活用している。
②専攻する特定の学問分野における知識を体系的に獲得することができる。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 60%以上獲得できている。専門分野の個々の学修は最低限達成している。※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 70%以上獲得できている。専門分野の個々の学修は最低限達成しており、それらのつながりについて体系的に理解し始めている。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 80%以上獲得できている。専門分野の個々の学修を達成しており、それらのつながりについて体系的に理解している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を少しは考えることができる。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 90%以上獲得できている。専門分野の個々の学修を達成しており、それらのつながりについて体系的に獲得する必要性を理解している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を明確にして、創造的に活用できている。
③上記知識体系を外部的視点で捉え直すことができるとともに、自己と関連付け洗練していくことができる。	自分が学んできた上記①②の知識において、生活経験と自分の興味とのつながりを見出し、学問的な関係性を把握している。修得した知識・技能を新しい状況で用いようと試みている。	自分が学んできた上記①②の知識において、生活経験と学問的な知識との類似性や違いを比較し、自分とは異なる見方や考え方も認められる。修得した知識・技能を、新しい状況のなかで課題や問題点の発見や理解に用いることができる。	修学期間中に学んできた知識の枠組みを明確にするために、様々な状況のなかから生活経験の例を考慮して発展的に考えることができる。修得した知識・技能を、新しい状況のなかで課題や問題点の発見や理解に用い、適用して応用することができる。	学問分野での理解を深め、自分の見方を広めるために、授業外の諸経験の間のつながりを意識深く統合できる。修得した知識・技能を、難しい問題の解決や、複雑な課題の探索のために、新しい状況でオリジナルな方法で適用して応用することができる。
III 【社会人としての汎用的能力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
①確かな日本語に加え、一つ以上の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。	修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。テキストの情報を適切に捉え、言い換えや要約することができる。文章作成の課題に対し、用語法を誤るが、ある最低限は注意を払い、基本的構成や提示において一貫した体系を使っている。会話において、中心的なメッセージは何か伝えることができる。構成がなっていないが、プレゼンテーションはできる。話術は相手の理解の妨げとなっていないと認められる。※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。テキストの情報を評価し、文脈や目的に応じて、基礎的な推論ができる。与えられた課題を自覚し、特定の学問や文章作成課題に求められるルールに、幾つかの誤りがあるが従うことができる。会話において、中心的なメッセージは基本的に伝えることができる。プレゼンテーションには構造的な構成が少しはできている。話術においては、まだ自信をもって話すことができていない。	修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。テキストの情報に対して、より複雑な推論を行うために、一般的及び特定の知識を使用している。与えられた課題に明確に焦点をあて、特定の学問や文章作成課題に求められる重要なルールを、一貫性をもって使用することができる。文章の誤りは減少しない。話において中心的メッセージは明確であり、プレゼンテーションには一貫した構造的な構成ができる。話術においては、相手の興味深く聞いてくれる。	修了学期末において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。テキストの情報を超える問題に対して、テキストが含意するものを認識している。与えられた課題に対応し、あらゆる要素に焦点をあて、特定の学問や文章作成課題に求められる広範なルールに細かな注意を向け使用することができる。文章の誤りは殆どない。話において中心的メッセージは説得力をもっている。話術は洗練しており、プレゼンテーションは説得力である。相手の反応から自信を持って対応することができる。
②自然や社会的事象について、図表等のシンボルを用いて分析、理解、表現することができる。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。自然や社会的事象について、科学・数学的形式の情報の解釈・結論を少しは説明ができる。結論にまで結びつかないことがあるが、データの量的分析を初歩的な判断根拠として使用できる。単純に情報の変換は完遂することができる。※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。自然や社会的事象について、小さなミスはあるが、科学・数学的形式の情報をある程度正確に説明できる。データの量的分析を、正確な判断根拠として使用でき、十分でないが結論を導くことができる。情報の変換は完遂することができるが、その結果である科学・数学的表現は部分的に適切あるいは正確である。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。自然や社会的事象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明することができる。データの量的分析を、確かな判断根拠として使用でき、結論は筋が通り適切である。適切な情報を適切な科学・数学的表現に変換することができる。	修了学期末において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。自然や社会的事象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明でき、これを土台とした適切な推論を立てることができる。データの量的分析を、思慮深く判断し使用しており、結論は入念で洞察に富んでいる。適切な情報をさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学・数学的表現に巧みに変換することができる。
③ICT(情報通信技術)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。	基本的な ICT 活用ができる。手当たり次第に情報にアクセスし、本質に欠けた情報検索をしている。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の 1 つは正確に使用できる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じてある程度の ICT 活用ができる。単純な検索方略を用いて情報にアクセスし、限られたソースから情報を検索することができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の 2 つは正確に使用できる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じて十分 ICT 活用ができる。多様な検索方略で、関連する情報ソースから情報を検索することができる。検索を絞り込むことができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の 3 つは正確に使用することができる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じて効果的に ICT 活用ができる。十分検討した検索方略で、適切な情報ソースを効果的に使用し情報にアクセスすることができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の全てを正確に使用することができる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。
④情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。	自分の見解を示す際に、現在の仮定に基づき、文脈の幾つかを同定し始めている。(選択された情報)ソースからの情報を、意図する目的まで到達できていないが、断片的に使用できる。	自分の見解を示す際に、仮定の幾つかを批判的に捉えることができ、重要な幾つかの関連性を同定することができる。自他の仮定・関連性に意識を向けている。ソースからの情報を発信し、組織化することができる。情報は統合されていないが、意図された目的はある程度は達成できている。	自分の見解を示す際に、自他の仮定や幾つかの関連性を同定することができる。ソースからの情報を発信し、組織化し、統合できている。意図された目的は達成できている。	自分の見解を示す際に、自他の仮定を体系的・方法的に徹底的に分析し、関連性を慎重に評価することができる。ソースからの情報を発信し、組織化し統合できている。意図された目的は完全に達成できている。
⑤問題を発見し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題に的確に対応できる。	自ら問題を発見するには至らないが、指示に従って問題に対応することができる。	指示に従って問題に対応することができる。自ら問題を発見することができる。リサーチエッセンスやテーマの範囲を不完全に限定して、問題を発見し、鍵概念を決定できる。(選択された情報)ソースを概念と部分的に関連付けるか、リサーチエッセンスに答えるかすることができる。	指示に従って、能動的に問題に対応することができる。自ら問題を発見することができる。リサーチエッセンスやテーマの範囲を十分に限定しており、問題を発見し、鍵概念を決定できる。ソースを概念と関連付けるか、リサーチエッセンスに答えるかすることができる。	指示に従って、問題に対応することができる。リサーチエッセンスやテーマの範囲を効果的に限定しており、鍵概念は決定できる。ソースを概念と直接に関連付けるか、リサーチエッセンスに答えるかすることができる。授業外の他の事柄に対して、自分に関係する問題を発見し、創造的に対応することができる。
IV 【地域生活を支援し、創造する力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
①上記 I～IIIの態度・志向性・知識・技能の知識を総合的に活用し、個人の職業生活及び社会生活のクオリティ向上を図ることができる。	自分のパフォーマンスを、成功か失敗かという一般的な記述で認識している。生活経験と、自分の興味との類似性や関連性が認められるアカデミックな文章やアイデアとのつながりを同定することができる。	自分の強みと課題を明確に表現し、別の文脈での有効性を高めている。生活経験とアカデミックな知識を、差異と類似性を判断するために比較し、自分とは異なる見方も認めることができる。	学修する自分の変化を正しく評価しており、複雑な文脈要因を認識している。学問分野の枠組みを明確にするために、様々な文脈から生活経験の例を効果的に選び、発展させている事例を示すことができる。	複雑な社会の下に置かれる将来の自分を現実的に思い描くことができる。学問分野での理解を深め、そして自分の見方を広めるために、生活経験や授業外経験などの諸経験とのつながりを意識深く統合していることが、事例で示すことができる。
②地域での実践活動をもとに、上記 I～IIIの知識・技能・態度・志向性を総合的に活用し、自発的に地域課題を解決することができる。	ボランティアなどの市民的活動を体験しており、自分の経験によって得た事柄について十分ではないが示すことができる。グローバルな関心事に対し、自分の内面で少しは考えている。	市民(プレ社会人)としてははっきりとした態度をもって参加・活動できる。コミュニケーション(プレゼンテーション、傾聴力、対話力、話術等)の一つ以上の要素をきちんと備えている。グローバルな問題を構成している複雑な関係を検討し、社会的・文化的な影響への考え	市民的な活動において、態度を明確にし、目標をもって自立的に経験でき、その成果を示すことができる。相手との円滑なコミュニケーションがとれる。学問的な概念と枠組みを用いて情報を収集し、グローバルな問題に対する対応への探求を行うなかで、地域課題の解	市民的な活動において、態度を明確にし、目標をもって自立的に経験でき、その成果を示すことができる。変容する異なる状況においても円滑なコミュニケーションがとれる。学問的な概念と枠組みを用いて情報を収集し、グローバルな問題に対する対応への探求を行うなか

<p>③上記Ⅰ～Ⅲの知識・技能・態度・志向性の総合的知識を統合し、個人の人間性の高揚を高めていくことができる</p>	<p>個々の学びについて断片的、あるいは浅いレベルで振り返っている。</p>	<p>を少しは持っている。 これまでに学んできたことの意味を多少は明確にし、以前(入学前)よりもある程度の視野を広げている。これまでの学びをある程度の深さで再検討している。</p>	<p>決のアプローチとの比較検討を行っており、課題に対する自分の判断を明確にしている。 これまで学んできたことの意味を十分に明確にしており、以前よりも広い視野をもって深く振り返っている。自己の人間性の向上を図ることについて考えている。</p>	<p>かで、地域課題の解決のアプローチとの比較検討を行っており、課題に対する自分の判断を明確にしている。 これまでの学びを明確に参照し、異なる状況に革新的に応用することができる。これまでの学びを深く再検討することで、視野を変化させ、長期間にわたって自己成長・成熟を拡張するための基盤をもっている。</p>
--	--	--	---	--